

里山コモンズクラブ通信 2013 春夏号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO
南山の
自然を
守り育てる会

<http://www.ina-mina.com>

●お問い合わせ先

発行・責任者

090-6658-7611(梁川) / 090-3579-4537(坂本)

里山コモンズクラブ通信「みなみやま」はNPO法人南山の自然を守り育てる会の活動案内です。

編集・責任者

多摩丘陵(南山) 自然観察会

開催日時：2013年4月28日(日) 10時~12時30分

天候：晴れ

場所：東京都稲城市 南山

参加人数：端数倶楽部(大人17名/子供8名 計25名)南山の自然を守り育てる会(8名) 計33名



【はじめに】

寄付先である「NPO法人 南山の自然を守り育てる会」との合同企画で自然観察会を実施した。南山は都心から近いにも拘わらず、豊かな自然を残す里山ですが、近年は宅地化の波が押し寄せ、この豊かな自然が失われつつある状況です。

そういった中で、端数倶楽部会員として一人でも多く、この実態を知って欲しかった事と、保全に尽力しているNPO団体との良好な関係を構築する事で、端数倶楽部として自然保護活動に関与し貢献する。



【観察会内容と竹の子堀り】

NPO団体から南山の自然保護に取り組む活動説明(材効・サシヨウウオ)について、写真パネルやサシヨウウオの実物(卵と幼生)を見ながら、生育についての説明を受けた。参加者一同、南山での希少種保護に対する取り組み理解と、南山全般に対して理解を深める事が出来、より身近に自然を感じる事が出来たと思われる。

その後の竹の子堀りは今年是不作との予測であったが、観察会参加者全員が竹の子堀りに没頭、各々が満足のいく収穫を楽しむ事が出来た。又今回参加頂いた方の中で2組のリピーターがいた事は、主催者として大変光栄であった。

【観察会内容と竹の子堀り】

住宅地化が進む中での自然との共存、難しいテーマではありますが、人間が自然の恵みをいただき生かされているわけですから少しでもオオタカの巣守っていきたくですね。子供たちは里山を守るについては・・・かもしれませんが山道をゴロゴロ転がりながら 初めてのタケノコ堀りに大喜びでした。タケノコご飯を作り、匂いの味を楽しむことができました。トウキョウオオサンショウウオも見ることができ、貴重な体験をありがとうございました。また次回このような企画がありましたら参加させていただきたいと思えます。取り急ぎお礼まで。(Sさん)

【担当者の報告】

毎年恒例の人気イベントであり、今回も多人数での開催となりました。好奇心旺盛な子供達8名を含めて、アットホームな雰囲気の中で、観察会と竹の子堀りを楽しく実施することができました。 今年竹の子が不作がみで大変心配していましたが、何とか各家族がほぼ満足のいく収穫が出来ました。参加者には大変喜んでもらい有意義な観察会となりました。(梁川)



コラム

☆原っぱの効能!?

公園などで、草が伸びていると「荒れている」「手入れしていないのか」と文句を言う人が居る。役所などにこうした苦情が届くと、「綺麗さっぱり」全ての草が刈り取られたり、花壇等に造り変えられてしまうことがしばしばだ。町田市の筆者宅近くの自然公園には、長く維持されてきた見事な『原っぱ』が見られるが、市では観光目的などの開発計画が持ち上がっている。

京都にある草原の山、通称「三笠山」では、毎年一回人為的に山火事を起こす。これは「火入れ」と呼ばれ、こうする事で樹木等が生えることを防ぎ、毎年土壌中の種子や根から生えるススキなどで覆われた草原の景色を保っている。

これと同様に、秋などにある高さで草刈を行う等、ススキなどが毎年生える状態を保つと、冬枯れにより毎春にはまだ草丈の低い中でスミレやオオイヌノフグリ、カントウタンポポなどが花を咲かせてにぎやかな光景となる。これらはススキなどが生い茂る夏には休眠している。

ところが狭い意味では、人手が入らない事が「自然」の条件とされる。では人が手を入れないと、原っぱはどうなるか。ススキなどの草原は、やがてクズなどの蔓植物や、ササ等の丈の高い多年生植物に多い尽くされてやがて優占されてゆく。そうなるヒト等立ち入ることが困難な密生した藪となり、その中は植物にとっても暗く、他の草本も生えること

困難な種数の少ない群落となる。

また、近年ではヒトが何らかの形で移入させた帰化植物が、ススキのまだ十分多くない土地に侵入したり、春先に伸びて土地をススキより先に優占することが多い。たとえばセイタカアワダチソウは、一度広がってしまつと発芽抑制物質を土に散布する事で、他種の共存を妨げて単一種の群落となる。ただし、そのまま長くアワダチソウの「天下」が続くかと思いきや、何年か経つうち養分を使い尽くすと自分達の出した発芽抑制物質のために自滅するという。

長く他の植物と共存できるススキやヨシなどは「茅」とよばれ、人は簾や屋根材などにも利用して長く親しんできた。そのため、ヒトは「茅場」を長く活用するため、上記のごとく手入れをして積極的に維持してきた。それが結果的に、ほかの草本植物も共存できる環境の管理につながってきた。

それを思えば、草むらの見方が変わってくるのではないか。勿論ヒトの立ち入れない草むらばかりでは困るが、適度に管理してヒトと共存する「原っぱ」も「自然」のひとつの姿として、もっと評価してもよいのではないか。南山にも、管理の仕方だけでよい原っぱとなり得る土地が、まだあるはずだ。これから「まちづく」と「自然回復」を考えるなら、そうした視点をもっと生かしてほしい。(桜井)

雑記帳

今年へび年です。へびは脱皮を繰り返して大きくなります。そのため成長の年、飛躍の年とも言われています。へびを「かわいい」とペットとして飼っている人もいれば、そのうねうねくねくねした姿、形から苦手な人も多いと思います。私も後者の一人でした。

さて、20年近く前のことになりませんが稲城には現在よりたくさん「空き地」があり草が生い茂っていました。当時マンションの2階に住んでいましたがその前にも空き地が広がっていました。ある日の夕方、帰宅するとすでに室内は暗くなっていました。そこで灯りをつけました。すると部屋のなかにアオダイショウらしきへびがとぐろを巻きかま首をもたげて鎮座していたのです。へびが大の苦手の私でしたが家具の隙間に入り込まれては大変と、必死のおもいでしっぽをつかんで外に出したのでした。おかげさまで、それ以来へびに対する恐怖心は少しうすりました。

(木場)

川島里山塾 **参加者募集**

南山に残された貴重な里山を未来にわたって良好な状態を維持できるように、学び、体験の場です。

先生:川島実(NPOいなぎ里山グリーンワーク代表)

参加費:1家族につき1回500円

窓口:080-5028-4601(林)

8月25日(日)

9月22日(日)

10月27日(日)

里山コモンズ 奥畑ヴィレッジの説明会を毎月開催します。

南山で緑を活かしたライフスタイルの“実現に向けて”話し合います。

連絡 090-3579-4537(坂本)

090-6658-7611(梁川)



稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 午前10時から12時

里山保全活動やオオタカ、サンショウウオの調査など、会員と一緒に活動しませんか?

会員の皆様のお知り合いで、この方は是非当会で活動して欲しいという方がいましたら、お誘いをお願いします!

“新会員の仲間募集”

場所:稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 13時から運営会

入会申込先:NPO南山の自然を守り育てる会

事務局:梁川(やながわ)携帯090-6658-7611

メールアドレス minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事提供のお願い

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない!! でも少しは会に貢献したい!! そんな会員の方はおられませんか? 達の会報を皆さんの力でもっと充実させませんか? 何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^ 広報担当 坂本